

バレエ・ピアニストの演奏に合わせて踊る

吉田 友子

バレエ・ピアニストとは、バレエのレッスンにおいて踊りの伴奏をするピアニストのことである。彼らが活躍するのはもっぱらレッスンという裏方で、基本的には表舞台に立つことのない存在である。その演奏法は独特で、多くの経験と、動きを音楽的に捉える特別な感性が必要とされる。本論文では、その演奏を検討し、また彼らが果たす役割について考察したい。それによって、一見議論が困難に思われる音楽と舞踊の関係を論じる糸口が得られるのではないかと考えている。

バレエ・ピアニストの演奏は、テンポ、デュナーミク、装飾音、アクセント、雰囲気などさまざまな点で特徴的であるが、そのほとんどが踊り手の感覚を刺激し、動きを促すためのものである。動きの要請に応えることが必要とされる音楽なのである。そうすると当然、彼らの演奏は、いわゆるコンサート・ピアニストの演奏とは異なったものとなってくる。この違いに着目し、バレエ・ピアニストの演奏を検討することは、クラシック・バレエにおける音楽と舞踊の基本的な関係を理解する助けとなる。

また、その演奏と踊り手の動きを比較してみると、動き方だけではなく、実際に動いている時の踊り手の感覚とも関わりが深いことに気づく。ひとつひとつのポーズもさることながら、その間を身体各部がどのような軌跡を描きどのような流れで動くかという問題は、クラシック・バレエにおいて極めて重要である。バレエ・ピアニストの演奏は、それぞれの要所で注意すべきポイントを示唆しているのである。彼らは単なる伴奏者というよりも、舞踊教師としての側面をも持つ存在なのであり、優れた踊り手を育てるのに少なからぬ責任を持つと考えられる。